

内閣改造に伴い経済産業副大臣を退任した高木陽介衆院議員(公明、比例東京)は十日、福島民報社のインタビューに応じた。政府の原子力災害現地対策本部長も務めた立場から、「今後も福島復興に関わり続ける」と語った。

―避難指示解除や福島

経済産業副大臣を退任

高木陽介氏に聞く

・国際研究産業都市(イノベーション・コースト)構想の推進に携わった。任期中の成果は。

「二十一年一カ月の任期だったが、復興を前に進められたと思う。地元自治体、住民との信頼関係の大切さを痛感した。地元の方々と国をつなぐ窓口になれたかなと感じ

ている」

隆会長のトリチウムを含む水の海洋放出を巡る発言は県内で波紋を呼んだ。監督官庁の副大臣として、どのように受け止めたか。

「福島のお気持ちを理解するのが大事であり、川村会長、小早川智明社長はもっと現場に足を運ばないといけない。この点は今後も言い続ける」

―県、県議会は福島第二原発の全基廃炉を求めている。

「東電は、もう結論を出さないといけない時期にきているのだと思っている」

◇ ◇
高木氏は十日、退任あいさつのため福島民報社を訪れ、高橋雅行社長と懇談した。

今後とも本県復興尽力



本県復興に引き続き力を注ぐ考えを示す高木氏

―今後の活動は。

「政府の役職は離れるが、公明党東日本大震災復興加速化本部の役員として引き続き福島を担当する予定だ。今後も頻繁に県内に足を運ぶ」

―任期中に東京電力のトップが交代した。川村